慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	バビロニヤの花嫁市場
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1929
Jtitle	史学 Vol.8, No.2 (1929. 8) ,p.138(304)- 138(304)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19290800-0138

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

バビロニヤの花嫁市場

ヘロドトス、第一卷一九六節によると、何れの村でも毎年一回そは次の如くに行はれる。處女が結婚年齡に達するに彼等はすべて皆一緒に集められて一團として一と處に連れて行かれ、彼等の周圍を一隊の男子が取卷く。そこで競賣人は彼等を一人一人に立たせて賣り始める。最初には團中第一の美人を出だし、彼女が賣られて大金が得られると、次ぎに、彼女に次いで最も美しい女を立たせる。彼等は結婚のために賣られるのである。そこでバビロニヤの中で富み且つ結婚を望める者は、互に値段を張合つて第一等の美人を買ふのである。けれども一般人で結婚を望める者は美貌を要求しないで、姿容の劣れる一女子に金錢を併せて得やうとする。競賣人は、彼が最も美なる處女達を賣り終ると、今度は最も媿なるを、即ち何れにか缺陷のある處女を立たせて、競賣し、最少額を申出でた人に彼女が賦與せられるまで、彼女との結婚に最少の金を欲する人を求める。この金は美の賣上代金から得られるので、最も美貌なる處女は眉目良からず不具なる人々のために嫁資を貢いでゐる。しかし、或る人が自分の娘を己れが好む處の人に結婚させることは許されない、また買取人が保證なくして彼女を連れ去ることも許されない。そは彼が彼女を連れ去る前に確かに彼女と結婚すべき保證を與ふることを必要とするからである。もし彼等が同意しないときには、金錢の拂戻をなすべきことが法律に規定せられてゐる。また人は欲すれば他の村から來て買ふことも適法である。以上は彼等の最もよい制度であつたが今は存續してゐないと。（間崎万里）